

9章 ～超常現象についてのケーススタディ～

妹尾

これまでの章の復習

- 「不思議現象」論理的、物理的、技術的に不可能な物に分類
 - ※不可能と考えられても、結局可能な物や、物理的に可能でも実在しない物もある。
- 「個人的体験」それを疑う理由があることが多く、十分な証拠とならないことが多い。
- 「客観的眞実」実際に存在する。
- 「知っている」それを信じる十分な理由があり、疑う合理的理由が無い場合。
- 「科学」仮説を合理的に説明する手段であり、仮説○主張を査定するモデルを提供。

SEARCH公式

→仮説や主張を評価する手助けとなる公式。

1, 主張の言明(State)

主張の曖昧さを排除していく

「幽霊は現実の物である」

→「死者の、肉体を離脱した霊は実在し、人間の目に見える」

2, それを指示する証拠(Evidence)の検証

その際、経験的証拠の性質や無効な理由が無いかどうか、仮説が証拠をきちんと説明しているかどうかを評価すること

3, 代替仮説(Alternative)の考察

4, 査定(Rate)——妥当かどうかの規準(Criteria)に従い、各仮説(Hypothesis)を評価

以下の5つの規準に照らし合わせ、より可能性の高い方が強い仮説である。

- テスト可能性→眞実かどうかテストする方法がある
- 豊饒性→新しい現象を説明する。検証可能な驚くべき予測をもたらす
- 範囲→多くの現象を説明出来る
- 単純性→前提となる仮説がすくなく、現象を説明する最も単純な仮説である
- 保守性→既に確率されている理論と矛盾していない

9章 ～超常現象についてのケーススタディー～

応用例

～ホメオパシー治療～

1, 主張の言明

A「健康な体に病気の兆候をもたらす物質が極微量あれば、病気の体に生じる同様の症状を治すことができる」

2, 証拠の検証

○ブルーピング→個人的体験やケースレポートに過ぎず、治療効果の証明にならない。

○科学的研究→今の所、全ての研究に重大な問題がある

(プラシーボ効果、比較対象の欠如、サンプル数が少ない、等)

3, 代替仮説の考察

B「ホメオパシー治療を受けている人の気分が良くなるのは、プラシーボ効果によるものだ」

4, 査定

○テスト可能性→A Bどちらも可能

○豊饒性→Aは検証可能な思いがけない予測は何もしておらず、評価出来ない

○範囲→「全ての症状を軽減する方法」なので、Aの方がBより広い(?)

○単純性→探知不能な要素、知られざる神秘的力を前提とするので、Aは問題あり

○保守性→希釈されると効果が上がる物質の存在は証明された例が無く、生化学と薬理学の科学的根拠に反する

以上より、AはBよりもずっと弱い。

～ダウジング～

1, 主張の言明

A「占い棒を用いることで、ある人たちは、周囲の環境から得られる情報を利用することもなく、偶然よりも高い確率で地下水の在処を突き止めることができる」

2, 証拠の検証

○個人的経験、目撃談、事実史→多くの欠点があり、信頼性は低い

3, 代替仮説の考察

B「ダウザーがうまく地下水の在処を突き止められるのは、偶然のおかげや、環境から得られる手がかりを、意識的・無意識的に用いているからである」

4, 査定

○テスト可能性→どちらも可能

○豊饒制→Aはなし

○範囲→Aの方が低い(多分)

○単純性→どちらも同じ

○保守性→Aは経験的根拠や人間的体験に矛盾する。Bは有力な根拠に支えられている

以上より、Aはおそらく誤りで、代替仮説Bがおそらく正しい。